

## ロゴマーク 候補作品

### 【要件】

- ・札幌市立大学開学20周年であることがわかるデザインであること
- ・デザインとして優れ、様々な媒体で広く展開できること
- ・カラーだけでなく、モノクロ化や拡大縮小した場合でもイメージが損なわれないデザインであること

No.	ロゴマーク	作品説明
1		札幌市立大学のロゴマークにあったコンセプトに準えて、雪が溶けて水となり、その水が巡り、花が咲くという札幌の自然の特色をロゴマークで表現しました。また、札幌市立大学を象徴する札幌オレンジを各ポイントとなる場所に入れ、札幌市立大学らしさを表現しました。さらに、その札幌オレンジに合う色にするために、色を混ぜすぎず、シンプルで優しい色味を目指して配色しました。そして、ロゴタイプはロゴマークと同様の流線型で表現し、統一感を持たせました。
2		私はこのロゴマークに3つの特徴を込めました。1つ目は「人」です。デザイン学部と看護学部では「人のために考えて動く」という点が共通しています。また、本学は地域との関わりも多いため、この大学の歴史は学内問わず多くの人と歴史を歩んできたと私は考えています。これらの特徴を込めるために、人の手をモチーフに取り入れました。2つ目は「未来」です。20周年とはいえ、まだまだこれからも進化していきたい。その過程を表すため、右上のオブジェクトを上に行くにつれて抽象的に描き成長の様子を表現しました。また、リボンを左上に向いているように描き、前向きに未来を見つめているようにしました。カラーもこれから成長していく爽やかな新芽の色を選びました。3つ目は「飾りすぎないこと」です。本学の雰囲気は、派手すぎない洗練されたものだと私は感じ取っています。お祝い事ではありませんが、騒がしいデザインにならないように全体を調整しました。
3		一般に成人の集いが行われる20歳は、節目となる年。そんな年を迎える札幌市立大学が良い一年を過ごせるよう、思いを込めてデザインしました。 1番目に飛び込んでくる20の文字の中には、水引でSCUマークを再現し、めだたい雰囲気を演出しました。基本カラーにはSCUマークに使われている札幌オレンジを使用し、札幌市立大学のアイデンティティを強調しました。日本の昔ながらのモチーフである水引と札幌市立大学のアイデンティティを効果的に取り入れ、20周年としてふさわしいロゴマークになっています。 札幌オレンジとSCUマーク、そして20の数字が、札幌市立大学の20周年を彩ってくれます。
4		20周年の「20」を象徴的にデザインしました。大学公式Webサイトの背景に用いられている図形にインスピレーションを受けて、デザイン学部と看護学部を円、三角形、四角形に置き換えて、それらで20という数字を構成しました。右方向に傾けた筋を20に加えることで、過去・現在・未来のつながりや、前進していくイメージを表現しました。また、下のアニバーサリーの文字をリボン状に変形させて記念感を出しました。
5		札幌市立大学開学20周年を祝う本ロゴは、節目の華やかさと大学の歩みへの敬意を込めてデザインしました。金色と朱色のグラデーションは、日本の伝統的な祝いの色彩を用い、祝祭感と温かみを演出しています。さらにキャンパス周辺に降り積もる雪を連想させる白色をアクセントに用いて、視認性を向上させました。中央の「20」は、一本のリボンをモチーフに複雑に折り重なるさまを造形し、これまでの人と人とのつながりや、未来への可能性や広がり象徴しました。軽やかで柔らかな曲線が、学生や教職員の多様な個性と大学の包容力を表現しています。全体として、札幌市立大学の「成人」としての節目を、明るく前向きに伝える記念ロゴに仕上げました。
6		2をデザイン学部、0が看護学部になるようにデザインし、20の文字でD×Nとなるようにしました。当大学の校章の元となった雪の結晶を配置しており、札幌らしさも大切にしています。そのほか聴診器や図面など、学べるカリキュラムを折りこみながら制作しました。

## ロゴマーク 候補作品

### 【要件】

- ・札幌市立大学開学20周年であることがわかるデザインであること
- ・デザインとして優れ、様々な媒体で広く展開できること
- ・カラーだけでなく、モノクロ化や拡大縮小した場合でもイメージが損なわれないデザインであること

No.	ロゴマーク	作品説明
7		<p>わたしは3期生なのですが「市立大が20周年記念事業をやるらしいよ」と何人かに連絡をしたところ全員から「もう20年！」とのリアクションが返ってきました。みんなの驚きをそのまま「！」マークに込めました。マークの造形は市立大のロゴマークの一片をイメージし見覚えがあって親しみやすい形を使用しながら、一部分であることでまだ歴史の途中であることを表現。また過去を表す地面に残る「足跡」、未来を表す空へ飛ぶ「気球」にも見立てています。大学の「いままで」と「これから」を大事にしながら、節目の20周年事業が「驚き」「ワクワク」に溢れたものになるようにという願いを込めたデザインです。</p>
8		<p>・「20」を象徴的に見せるロゴマーク 一番伝えたいのは、開学20周年という節目の年(数字)であること。要素のなかでも「20」が際立つようにしながら、ロゴタイプをかたどるように形を描くことで必然性を持たせました。札幌市立大学キャンパスやD (Design)・N (Nursing) の形もモチーフとしています。</p> <p>・「ひらけた」ロゴタイプ 札幌市立大学での学びが、受験生／在学生／卒業生の未来をひらく。加えて、次の10年(開学30周年)へと視界がひらけるイメージ。</p>
9		<p>・20年間を年輪で表現 開学してからの年月を、芸術の森が育む樹木たちの年輪を模したストライプで表現したロゴマーク。</p>
10		<p>本ロゴマークは、札幌市立大学のデザイン学部と看護学部、両学部をイメージした2つのハートをモチーフとしています。それぞれの心が寄り添い重なり合うことで、これまでの20年、そしてこれからの未来へとつづく「考え、想い、寄り添う力」を表現しています。2つのハートはやがてひとつのクラウド(雲)を形づくり、そこには“知の集合体”としての大学の姿、また誠実に考え続ける思考の象徴が重なります。このクラウド(雲)には、絶えず形を変えながらも存在し続けるものとして、めまぐるしく変化する社会の中においても、歴史を重ね成長し続ける大学の姿と、未来への願いが込められています。さらに、大学ロゴマークへの敬愛の念を込めて「札幌オレンジ」を採用し、大学の精神と歩みを継承する意思を表しました。</p>
11		<p>札幌市立大学の学生は、真面目。皆それぞれの目標に向かい努力し、専門性を高めることができる人達である。札幌市立大学の学生は、ちょっと変わり者。皆どこか人と違う感性と考え方をもち、己の芯を貫きながら生きる人達である。札幌市立大学にいた4年間、私はそんな面白い人たちとたくさん出会い成長しました。その感謝を込めて、真面目だけ少し浮世離れた同志たちを思い描きながらロゴを制作しました。デザインのD、看護のNが互いに連携し、型にはまらず、新しいことに果敢に取り組んでいく様子をロゴマークで表現しました。アルファベットのDとNを掛け合わせて、デザインと看護が連携する、SCU独自の教育理念を表しています。また、それらを「20」から少しはみ出して斜めに配置することによって、真面目だけではなく、型にはまらない独自性のあるSCUの皆さんを表現しました。</p>